

(セクサロイド執事)

(トラック①)：

(男装執事なので、男の子ぼく)

(朝マスターを起こしに行く)

(やや右・中)

マスター、

ご起床ください。

本日学園は、

お休みの日ですが、

妹マスター様が、

食堂でお待ちです。

ご起床ください、

マスター。

おやおや、

これはまた、

相当に寝相が悪いですね。

もう寒い季節になっておりますので、

お腹を出して、眠るのは、

お控えください、

マスター。

(やや左・中)

(中・中)

はあ、

朝から

セクサロイドの

男装・執事になんて

起こされたくない…

可愛いメイドさんが  
起こしてくれるように  
手配を頼む、ですか。

(やや右・中)

僕だって、

寝起きの悪いマスターの  
面倒を見るのはごりごりです。

ですが、

生身のメイドを雇っても、

すぐに誰かさんが、

セクハラしまくって、

しかも、

横暴で横柄な態度をとるから

すぐにメイドが辞めてしまっ

執事兼、

セクサロイドの僕が、

マスターの身の回りの

お世話を

する羽目になってるんですよ？

本来、

身の回りのお世話は、

メイドの仕事で、

僕の仕事は執事として、

マスターの身の回りの警護と、

セクサロイドとしての

夜のお世話だけなんですから。

あんまり甘えないでください。

と、このように言っていて、

小さい頃からマスターのことを

1930回も、

進言していますが、

改善する見込みはありませんので  
期待はしていませんが、

一応、

お伝えはしましたからね。

(中・近)

：

僕のケツをごねくり回して、  
相変わずいい触り心地だなと、  
お褒めいただいて、  
ありがとうございます。

もし、

朝からされたいようであれば、

妹マスター様も

お待ちですので、

最短で

抜かせていただきますけど、

いかがいたしますか？

はあ、

承知いたしました。

本日は朝勃起も

されていないようですし、

このまま身の支度を

整えさせていただきます、

食堂に向かいます。

妹マスター様がお待ちですので、

くれぐれも速やかに

準備を行ってくださいね。

(食堂にて)

(右・中)

妹マスター様、

お兄様をお連れ致しました。

先ほど起床されたばかりで、

少々頭が、

ボケているかと思いますが、

適当に

お相手をお願いいたします。

(やや右・中)

それにしても、

妹マスター様は、

いつでもかわいらしいですね。

はあ、

ノビリスのほうが、

かわいらしいわよと…

ご冗談でもそのようなこと、

おっしゃらないでください。

僕のような

セクサロイドなのに、

男装執事の格好をし、

色気も何もない

僕のことを

かわいらしいなぞ、

お褒めの言葉が過ぎます。

マスターには、

夜の性処理のご奉仕のときに、

女性らしい格好を求められますが…

あいにくと、

僕に似合う服がなく、

この格好のまま相手を

しておりますが…

もう飽き飽きされているようで、

事務的に作業が完了します

効率的な部分は

望ましいことなのですが……。

いえ、

妹マスター様に

お話するようなことでは、

ありませんでしたね

(やや左・中)

それでマスターは、

朝はブラックコーヒーだけで

宜しかったですよね？

今お注ぎ致しますので、

少々お待ちください。

お砂糖とミルクはご自分で

入れられると

思いますので、

こちらに

置かせていただきます。

マスター、

どうされたのですか？

スプーンを足元に落とされて、

拾えとのご命令ですか？

一向にかまいませんが、  
なぜそのようなことを…

(中・遠)

ふむ、

膝をついて、

ダイニングテーブルの下に

もぐりましたけど、

なるほど…

そういうことですか。

朝のご奉仕が

なかったかと思えば、

このようなところで…

執事の僕に、

このズボンを押し上げている

ガチ勃起ちゃんぽを

おしやぶりさせたい、

そうですね

妹マスター様と、

おしやべりをしながら、

僕におちゃんぽの

お世話をさせたいなんて、

相変わらず意地悪な

性癖をしていますね、

マスター。

言われれば

セクサロイドの役目を、

十分に果たしますのに、

わざわざ僕のようにならなきゃ…

ですが、

致し方ないですね。

(中・中)

ほーら、座ったまま、

おズボンとおパンツを、

失礼させていただきます。

今日も、マスターの

おちんぼは、

ガチガチのビンビンですね

毎日僕が抜いているのに、

直ぐに精子を金玉に溜めて、

勃起を繰り返す、エロちんぼ

ふむ、

この前、

僕の仏頂面に見つめられながら、

ちんぼしやぶられるのが

苦手だと

言っていましたか…

なるほど、

これなら僕の顔を見なくても、

おちんぼを

しやぶらせることができますね。

ほーらマスター。

妹マスター様としっかり

お話してて、ください

僕はこの、

マスターのガチガチに立った

朝立ちちんぼをおしやぶりにして、

性処理を、

させて頂きますから。

(中・近)

ほーら、

セクサロイドの口おまんこに、

マスターの

ガチ勃起おちんぼを差し込んで

(中・密着)

(フェラしながら読む)

ほーらほーら、

マスターの

ガチ勃起おちんぼは、

最初は、

ゆーっくりと皮を剥かれながら、

(ゆっくりフェラ 5秒)

普段隠れている

亀頭をしゃぶりつけて、

おちんぼの面倒をみられるのが

好きですもんね。

ほーら、ほーら、ほーらー。

マスターのちんぼの形、

しーっかり覚えていきますから、

マスターのちんぼが

一番気持ちよくなる形に

口まんこを作り上げて、

(フェラ 8秒)

ほらズボズボ、

ズボズボ、ズボズボ。

最初は舐めるように、

ゆーっくり口フェラして、

徐々に

奥までおちんぼのこと、  
お口おまんこで誘い込んで、  
おしやぶりされるフェエラが  
好きなんですものね。

(フェエラ 5秒)

ほーら、

ほーら、ほーらー。

(ゆっくりフェエラ 5秒)

性格は粗暴で

乱暴なくせに、

丁寧におちんぼフェエラしないと  
怒るわがまま、マスター

ほーら、ほーら、ほーらー。

(ゆっくりフェエラ 5秒)

マスターのおちんぼ、

もう、

ピクピク、ピクピク、ピクピクになって、  
気持ちよく、

射精できるのわかっていますよ

僕のちんぼフェエラで

おちんちんピクピクして、

お金玉で作ったザーメン、

僕の射精吸引機付き、

口マンコで精子を捨てたいの  
わかりますよ

口の造形を

マスターのちんぼ竿が

一番気持ちよくなれるように、  
再構築されて、

マスターのちんぼ専用機になってる  
僕の口おまんこで、

ちんぼゴシゴシされてる

気分はどうですか？

ほら、ほら、ほらー。

(フェラ 5秒)

ふふっ、

妹マスターとおしゃべりをしながら、

余裕な顔で

おちんぼしゃぶられてるの、

少々、鼻に尽きますね。

心拍数も、

脈拍も上がりまくって

射精寸前なのわかってますよ

ほーら、

ザーメンでたっぷりになってる、

両方の金玉袋を

お口おまんこに出し入れて…

(右・密着)

ほーら、

右玉をコリコリ、

コリコリ、コリコリしながら、

下からザーメン上げて、

ちんぼ射精を促していますよ？

(玉しゃぶりフェラ 10秒)

(左・密着)

ほら、今度は逆のタマタマしゃぶりつけて、

おちんぼの先っぼから、

びゅーびゅー、びゅーびゅーびゅーびゅーびゅーびゅー、

気持ちいい射精をできるように、  
おちんぼ竿の面倒を  
見させていただいています。

こーんな男装した  
執事のセクサロイドで、  
毎日ちんぼの面倒を見られて  
射精をするなんて、  
マスターは幸せ者ですね。

(中・密着)

ほーら、ほーら、ほーらー。  
射精の時間ですよ

ちんぼ竿の一番奥まで  
おちんぼしゅぶりつけながら、  
口おまんこに出し入れしてえー  
(フェラ 5秒)

ほーら、  
マスター、マスター。  
もうイってください。

顔は平常心を  
保っているつもりでも、  
足ガクさせて、  
射精を耐えているの  
わかっていますよ。

ザーメン射精したら、  
ゼーんぶ僕の口おまんこの中に  
お掃除バキュームフェラして  
胃袋ユニットに、  
ザーメン納めてあげますから、  
オツキョー、  
ちんぼイってください。

ほらいけ、

ほらいけ、ほらいけ。

(フェラ 8秒)

セクサロイドの

口おまんこの中に、

ザーメン中出しして、

それで金玉ザーメン

捨ててください。

ほら、イっけ！

(無声音 精子飲む音 8秒)

ああ、

出てる、出てる、出てる。

マスターから

見えないと思いますけれど、

おちんぼ綺麗にするために

ひよっとお口顔になって、

残っているザーメンも

ゼーンぶ吸いだして、

おちんちん綺麗に

させて頂いています…

とっても気持ちいいですよね、

マスター。

(左・中)

ふう、

それではマスターも

パンツとおズボンを

戻させていただけます…

また僕は、  
仏頂面で業務に戻ることにします。

ご朝食が終わったら、  
続きを…  
ですか…

承知しました  
マスター

もちろん、  
お相手させて頂きます

次期当主さまである  
マスターのお相手を  
するのは、当然でございます

それでは、一度失礼します  
マスター

(トラック②…反転する世界(立場逆転わからされマゾ)

(中・遠)

(マスターを拘束して、上から目線で)  
ほーらマスター、  
ご機嫌はいかがでしょうか？

猛獣用の、  
狭い鉄格子の牢屋に入れられ、

そろそろ一ヶ月が経ちます。  
食事も水しか与えられず、  
排出物は簡易的なトイレで、

僕が見ている前で、  
排泄することを強要されて…

だいぶプライドが  
削られてきましたか？  
マスター。

いいえ、  
家、

僕は怒ってなどなんていませんよ。

今までの行為も  
セクサロイドとして  
当然の務めだと思っています。

ですからマスターの待遇については、  
この状況は、  
来るときが来た、  
という事ではありません。

そろそろ、  
いいでしょう。

効率的に  
ご自身の立場を  
わかっていただくために、  
まずは、  
体に分かせましたが…

ようやく僕の言うことも  
耳を傾けられる状況に  
なったと思いますので。

(右・中)  
いいですか？  
マスター。

今までのマスターは、  
金持ちの道楽お坊ちゃんで、  
金にも女にも困ることがない、  
何不自由がない生活でした。

そのくせ、  
女性に対しても  
常から上から目線で、  
自分がトシであると  
嘘をついて生きてきたのです。

いいえ、  
否定していただいても、  
違いますよ、それ。

そうなるように  
生まれたときから  
ずっと仕向けられていたのです。

よく聞いてください？  
マスター。

この国には、  
「マゾオス」という  
種族があります。

性格には、  
居た、と言ったほうが  
いいのかもしれないが。

今まで生まれてきた  
マゾオスたちは、  
国策により、  
我々セクサロイドが  
根絶やしにしてきた、  
歴史的な事実があります。

オスは、

マゾに生まれることは罪。

マゾに生まれてしまったからには、

人権を破棄させられ、

家畜と同様の扱いを

されなければいけない。

そのような国策があり、

それを常に、

我々セクサロイドが

実施してきた結果…

マゾオスたちは絶滅し、

今では天然のマゾオスは

生まれなくなってしまうのです。

当然、

それは国策の結果ですので、

良しとしましょう。

ですが、世の中には

物好きがいるものでして…

絶滅危惧種の

ホワイトタイガーや、

シーラカンスのように、

人が持っているものを欲しいと願う、

上流階級たちが

一定数いたのです。

しかも人間の言葉を発し、

理解ができる、

人間以下の存在、

マゾオスは、

上流階級からすれば、

所有欲を刺激する

一品で…

やがては、

上級なマゾオスを保持する事は、  
ステータスの一つとなったのです

しかし…

この国では天然のマゾオスは、  
もう生まれることすら許されない。

DNA的ご、

排他された存在だったのです。

それでは、

一体どのようにすれば、

その希少性を持った

種族が手に入るのか…

簡単なことです。

豚や牛のように、

養殖をしてしまえばいい。

過去のマゾたちのDNAから

種の復元をするのは

とても容易なことでした。

しかし、

マゾオスたちは、

生まれただけでは

真のマゾオスとなることは

できません…

ある程度の社会的立場、

一般的な常識、

そして過度の過信と勘違い。

これを持っていないと、  
上質なマゾオスになることは、  
ありません

(右・密着)

(ぎゅぎゅき声で)

そいで、

作ることにしたのですよ。

マゾオスの中でも

さらに希少性を持った、

とても高品質な

上流階級用のマゾオスをね。

(中・中)

はあ、

何を言っているか

わからないという顔ですね。

相変わらず察しが

悪くて、

バカですね、マスター。

いいですか？

マスターは

この金持ちボンボンの家の

ご子息様ではありませんし、

もちろん妹マスターとも、

まったく血のつながっていない

他人でござります。

すべては、

マゾオス育成の為…

人工的に作り出した、  
マゾオスの中でも、  
希少性が高く、  
稀有なDNAを使い、  
作り出し、

そしてお家の次期ご党首、  
長男という立場を  
作り出して、

大事に…大事に…  
育ててきました。

マゾオスの飼育は、  
ただ痛めつけるだけ  
ではダメです。

元々社会的地位が  
低いものから作っても、  
高品質なマゾオスを  
作ることができません。

登らせて、登らせて、育て、  
傲慢になり切ったところから  
一気に落とすことにより、  
本当のマゾオスに  
なることができます。

さあ、  
察しの悪いマスターでも  
わかりましたよね。

あなたはただ単に  
そのために作られた存在。

マスターは今までの勝ち組人生から、  
人間以下の劣等種族。

蔑まされ、辱められ、  
みじめな生活を送ることで  
快感を覚える、  
人以下の存在…

「マゾオス」になるために  
生まれ育てられてきたのです。

もちろん、  
最上級のね。

ふふっ、  
嘘だ嘘だと、

鉄格子を叩かないでください。  
そのように  
暴れられてしまえば、  
お仕置きをしなければ  
ならないじゃないですか。

小さい頃から面倒を見ている  
マスターに  
暴力をふるいたくは、  
ありませんから、  
少々お静かに  
なさっていただけると助かります。

もちろん僕は、  
今でもマスター専属の  
セクサロイド兼、  
執事ですよ。

ただ、  
少々立場が  
変わってしまっただけです。

これからはマゾオスとして、  
立派に育つように

たくさんご奉仕してあげますからね、  
マスター。

それではまず、

一ヶ月間も絶食をさせられて、  
おなかが空いたでしょう。

それでは、

食事にはましようか。

ふふっ、

一般家庭でも出てこないような、

(やや左・中)

やっすーいパンを

床に投げ捨てて、

差し上げますから、

どうぞ召し上がってください？

ふむ。

昔は床に落ちたものなど、

何の興味も示さなかったくせに…

今は目線を

そらすこともできないうのですね。

鉄格子の隙間から手を伸ばし、

必死に届かせようとしている姿、

とても哀れです。

ですが、

ギリギリ届かないところから

投げ捨てていますので、

いくら手を伸ばしても無駄ですよ。

この完璧な執事の僕が、  
このような粗末なパンに  
味付けもしないで、  
マスターに提供するわけ  
ないじゃないですか。

(中・近)

ほーら、

安いパンを、

セクサロイドの僕の足で  
グチョグチョに潰して、

マスターが食べやすいように  
砕いてあげますよ。

ほら、

ほら、ほらー。

ふんっ。

(パンをける)

ほれ、

足で蹴りつけて、

マスターの小屋の前に

近づけてあげましたから…

どうぞ、

お召し上がりください。

セクサロイドの

僕が味付けした

砂利ゴミパンは、

とてもおいしいですよ。

(馬鹿にする口調で)

ふん、

食べてる食べてる。

あれだけ傲慢で

甘やかされてきたのに、

少しひねってやれば、

すぐにプライドを捨てて、

きつたない、

パンにかじりついて。

やはり希少性のある

マゾオス種は、

一味違いますね。

ほーら、

マスター。

何、

必死にかじりついているんですか。

忘れていきますよ？

いただきますと、

施しを与えてあげた僕に、

ありがとうございますは？

どうしましたか？

おやおや、

砂砂利パンを食べて、

おなかがある程度膨れたら、

もう反抗的な目つき。

今までの教育と

立場のたまものでしょうか。

ですが…

マゾオスのくせに、

僕に逆らったのは失敗でしたね。

マスターは、

僕のご主人のままですけど、

立場は圧倒的に

僕のほうが上なんですから

逆らったら

痛い目に遭うことを

わからせてあげないといけませんね。

(やや右・近)

ほーら、

マスター。

命令です

今からお礼を言いながら、

オナニーをしてください。

僕が見ている前で、

パンを与えた僕に

しっかりお礼を言いながら、

ちんぽシコって

射精するところまで、

自分で追い込んでください。

(きつめの口調で)

言っておきますけれど、

今すぐやらないと、

次のパンの支給は、

三ヶ月後ですよ。

そのやすいパンを食べただけで、  
あと三ヶ月間、

乗り切れますかねマスターは。

ほら、

チャンスは一度だけです。

3、2、1。

(やや左・近)

(うれしそうに半笑いで罵倒)

ああ、こいつ、

シコってる、シコってる、シコってる。

この前まで

オナホゴミ箱扱いしていた、

僕に

お礼を言いながら、

おいしいパンを、

ありがとうございます、

ありがとうございます、こいつって、

あの包茎皮の

ダルンダルンちゃんぽ。

自分でシコって

腰を突き出しながら、

情けないオナニーをして

最低だな、こいつ。

人間のくせに

セクサロイドに命令されて、

自慰行為をさせられて、

プライドないのかよお前は。

ほーら、マスター。

その情けないちんぽコキ動画、

中間報告として、

妹マスター様にしっかりと

報告させていただきますからね。

元お兄様は

こんな情けないちんぽをやらして、

セクサロイドにお礼を言いながら、

自分のちんぽを

気持ちよくするために

シロリまぐっぺりますって。

ほら、ほら、ほら。

ふらふら、

それにしても

こいつのちんぽ、

小っちゃいな。

いつもご奉仕するとき

思っていたけど、

ああ、

こんな小っちゃいちんぽと

相手しても、

全然楽しくない。

僕はセクサロイドなのに、

こんな小っちゃい

ちんぽの相手しかできないから、

全然性能を

出すことができなくて、

とーっても不満だったんです。

ほーら、

その小っちゃいちんぽ、  
自分でしっかり追い込んで、  
セクサロイドに  
ちんぽバカにされて、  
それで果てちゃいなよ。

ばーか、ばーか、  
ばーか

ちんぽ小さい、  
短小・包茎・だきちんぽの  
低能ザコ、  
ばーか

ふふ、  
ほらいけ、  
ほらいけ、ほらいけ。

ザーメン射精するときは、  
セクサロイドのノビリス様、  
オナニー  
ありがとうございます。

ちんぽ、失礼いたしますって  
言って、  
お礼を言いながら果てろ。

ほーら出せ、  
ほーら出せ、

ほーら出、せっー！

あーあ、  
ちんぽピクピク、  
ピクピク、ピクピクってー

一ヶ月間何の  
栄養も取ってないから、  
精子も出ないクソザコ。

オスのくせに、  
ちんぽシコつていった癖に、  
ザーメン出せないとか、  
情けなさすぎ。

(中・近)

(少し優しい口調で)

ほーら、マスター

しっかり

マゾオス、

できたみたいですから、

牢屋のカギを開けて

元のお部屋に戻してあげます。

お疲れさまでした、

マスター。

言っておきますけど、

明日からもマゾオス調教は  
続きますからね。

こんなのはまだ、

序盤の出来事です。

マスターがしっかり一人前の  
マゾオスになれるまで、  
僕もしっかりご奉仕させて

いただきますから、

よろしくお願いします。

で？何やってるんですか？

僕が頑張るって

言ってるんですから、

マゾオスのマスターは、

土下座して、

よろしくお願いしますって

言わなきゃダメじゃないですか。

また牢に戻しますよ。

(中・中)

ふふっ、

情けない安い頭で土下座して、  
床に頭をこすりつけて。

ほーら、

頭踏みつけてあげますから、

これからもしっかり

頑張らしましょうね

マスター。

(トラック③：深夜の寸止め責め)

(やや右・近)

(手コキしながら)

ほーら、

マスター。

しっかり歯を食いしばって、

耐えてください。

言うこと聞けないと、

また、牢屋に戻しますよ？

せっかく、

ふかふかのベッドの上で

眠れているんですから、

感謝しながら

しっかり我慢してください。

それにしても、

マスターは感じやすくて、

本当にちょういザコマンですね。

頭に脳波のグラフが

出せる機器をつけられて、

気持ちいいところ、

ゼーンぶ把握されて、

おちんぼコかれながら、

弱いところ全部

研究されちゃってますよう。

乳首だって、

三時間もこりつけられて、

デカ乳首にさせられて、

ちんぼ射精は一回も

許してもらってなのにな…

我慢汗ばかり出る、

イキたがりのエロちんぼこ

なってますね。

まあ、

僕が射精しそうになったら

寸止めして、

マスターのエロちんぼ、

イかせないよっけ

生き永らえさせようあげてやる

だけですげね。

ほーら、

先ほどから僕に弱いところ、

ゼーんぶ、

見抜かれちゃってますよ。

マスターはほら、

右乳首を引っ張られて、

コリコリされながら、

手マンコのおちんぼゴシゴシ穴を、

狭くされて、裏筋をいじめられるのが

いいんですよね。

いつも好き勝手に

自分が気持ちよくなった

タイミングで

射精をしていた、

一人よがりのわがままちんぼ。

今は僕の手のひらの中で、

いーっぽ。

しごきあげられて

いじめられちゃって…

イクことは許されない、

いじめれマンちんぼに

なっちゃっています。

ほら、

ほら、ほらー。

いいですか？

マスター。

マゾオスは自分の意思で

射精などできないのですよ。

相手に媚びを売って、  
売って、売りまくって、  
相手の方に

満足していただいたときに、  
初めて射精が、  
許されるのです。

それなのにマスターと来たら、  
早漏のゴミちゃんぽで、  
ちよつとちゃんぽひねってやると  
射精しまくるから、

わざとわざこの僕が  
おちんぽイかないように、  
指導してやっているんですから、  
しっかりお礼を言って、  
マズザコ射精を懇願してください

(右・密着)

(ギョギョやき声で)

ほーらマスター、  
ほーらマスター。

(復唱する感じで)

もうイク、  
もうイク、  
もうイク。

さっきから、  
ちゃんぽシコられまくって、  
射精寸止めちゃんぽに  
されてもう耐えられない〜

ちゃんぽから  
マズ射精したくて、  
負けたくて、  
たまらないい

ああ、

お精子出る出る、

出る出る、出る出るーと、

脳波のグラフが

パンパン頂点になった、

ところで、

手を離されて、

それ以上の、

刺激を与えられずに…

悶々として、

上がってきた精子が

金玉に逆流して、

とーってもキツイですよ、

マスター。

(中・近)

でもマスターは、

勝手にイケる自由なんて

存在しないんですから、

今日は、

僕がマスターの立場を

おちんぼのままで

しーっかりわからせてやります。

ほらほら、

ほらほら、ほーらほらー。

泣きべそかいて、

媚びてきておりますね

(復唱する感じで)

もう許して、

もう許して。

おちんちんこれ以上、

レイプしないで〜

乳首も、ちんぼ竿も、

いっっぱい、いじめられちゃって〜

もう無理、もう無理って〜

(やや右・近)

なに泣きごと言っているんですか。

真のマゾオスのしつけ方が、

こんなに甘いわけ

ないじゃないですか。

ほーら、

もう限界ギリギリになって、

脳みそバカに

なりそうなマスターは

次のステージに進んでいきます。

(中・近)

ほーら、

動いちゃダメですよ？

いけないところに

刺さっちゃいますからね。

ちんぼのほら、

根元ザーメンをひねり出す用の

精管(せいかん)に、

常人だったら頭が狂っちゃっつお薬、

注入して差し上げます。

(やや左・中)

(復唱する感じで)

やだ、やだ、許して、  
そんなの入れるの、  
怖い、怖い、怖いと、  
メス声をあげても無駄です。

廃人ギリギリになるまで、  
薬で追い込んで  
差し上げますよ。ほーら。

あーあ、  
入っちゃった、入っちゃった。

普通の男性なら一ミリでも  
我慢できない量のいけないお薬。  
十ミリリットルも入れられて、  
頭おバカになっちゃいますね。

おー、おー、  
やはりなかなか威力がありますね。

先ほどから会館の脳波が  
高い水準で、フラットになって  
常時オーガニズムを感じています。

今、  
一切触ってないのに、  
多幸感で脳みその中がバカになり、  
決壊寸前ですね。

(中・近)

ほーら、  
このバカになったマゾオスの体を、  
両乳首をセクサロイドの  
僕の指力で引っ張り上げて〜

普通のオスだったら  
痛くて泣いちゃう威力で  
マゾ責めいきますよ

おお〜

伸びてる、伸びてる、伸びてる。

五センチも乳首伸ばされて、  
それでアへ顔になって、  
汚いですね、マゾ顔。

ほーら、

ほーら、ほーらー。

乳首取っちゃいましょうか。

こんな、

感じるだけの

オスの弱点のエロ乳首、

両方とも取って、

空気抵抗のない、

情けない体に

なっちゃいましょうか？

マスター。

(復唱する感じで)

ん？

乳首取って、乳首取って、

もっと気持ちよくなりたいから、

両乳首取って、

恥ずかしい体にしてーって。

そんな風に言われたら、

逆に取りたくなくなりますよ。

(中・中)

ほーら、今度はケツ穴。

僕の指でズボズボ、

ズボズボ、ズボズボ入れられてく

前立腺を刺激されながら、

男の子が使っちゃいけないところ、

ゼーンぶ犯してあげますよ。

(中・密着)

ほーら

(緩急付けてゴシゴシ10秒)

(やや左・中)

(復唱する感じで)

ん？

許して、許して、

おケツまんこレイプは許して。

それつらいのーって。

でも、しゅきしゅき、

しゅきしゅき、しゅきしゅきーって、

馬鹿ですね

何言ってるか、

全然わからないですよ。

さっきから

前立腺をいくら刺激しても、

ちんぽ射精、

メスイキできる

ギリギリのところまで

控えてあげていますから、

絶対絶頂は、

できない癖に、

バカなマゾ顔ばかり晒して、

恥ずかしい顔、僕に見せつけて…

いったい、

何がしたいんですか？

(中・密着)

ほれほれ、

ほれほれ、ほれほれー。

尻穴の奥まで、ゴリ付けて、

前立腺をレイプして

差し上げますよ

(左・密着)

(ぎゅぎゅやき声で)

(復唱する感じで)

んっ

おちんぼ触って、

おちんぼ触って、

おちんぼ触ってーっって、

何、媚びてきているんですか。

(やや右・近)

ダメに

決まっているじゃないですか。

脳波を見たら丸わかりですよ。

今まで甘攻めで、

ちんぼは、

生きながらえさせてあげましたけど、

これ、少しでも触ったら、

射精する気じゃないですか。

ちょっと触ったら、

その刺激だけで、

情けなーいちんぼ射精して、

許してもらおうとっ

思っていますよね。

そんなのダメに

決まっているじゃないですか。

(復唱する感じで)

ん？

射精しない、

射精しない。

ちよっどでいいから触って、

ちよっどでいいから触って。

おちんぼイかないように、

立派なマゾオスに

なれるよう頑張れるから、

ちんぼちよっどだけ刺激してーって。

ふむ、

立派なマゾオスになるというのは

良い心がけですが…

そうですね、

触ったら絶対射精しますから、

ちんぼの先っぽ、

僕のセクサロイドの

きつつーいデブコロンで

弾いて差し上げます。

言っておきますけれど、

これで射精したら、

マスターの、

バカ脳みそでは考えられないくらい

キツイお仕置きをしますから…

絶対射精は、

しないてくださいね。

ふん、

ちんぽをフリフリしながら、

頑張れる、

頑張れるって言って、

デコピンを

おねだりしてるんですか。

ほら、

この、エゴマンマスター。

セクサロイドのセメントを

ぶち抜けるきつぱデコピン

ちんぽ裏筋にお見舞いして、

あげますから、

お礼を言ってください

(中・近)

(玉ひびく)

ほら、

ゴ・ミ・ギョーおおおー！

(右・密着)

(淫靡な声で)

(見下す冷たい声)

ああ…

こいつ最悪。

出てる、出てる、出てる。

ちんぽの裏筋きつぱ

デコピンバチーンってきれて、

それで気持ちよく、

約束破りの

射精を繰り返している。

僕が育ててきたちんぽ金玉から

好き勝手に射精して、最低だな、お前。

(やや右・近)

ほら、

自分で言ったことは責任取れよ。

脳みそバカになって

廃人になっちゃうから

手加減してやっていたけど、

お前のぎみいクリちんぽを、

僕のセクサロイドの

ドキッーい握力で、

せませま穴にした

手コキ穴で、

ほらちんぽ突っ込んで、

ゴシゴシ、ゴシゴシ、ゴシゴシ。

ほら、あやまれ

(謝れ連呼 8秒)

(左・中)

(復唱する感じで)

許して、ちんぽ許して。

今イッたばっかりだから

許してーって、

許せるわけないだろ！

ちんぽ取れるまでしてやるから、

せいぜい泣き狂え、

このゴミマズ。

ほーらっ！

(壊れろ 連呼 8秒)

(左・密着)

(息を吹きかける)

ああー

出てる、出てる、出てる。

(右・密着)

ふむ…

で？

出てるからなんなのさ。

(やや右・近)

ほら、ほら、ほらー。

射精して、

びくついて、

ちっちゃくなろうとしてる

ちんぽの根元締めあげて、

ちんぽちっちゃくならないように

調整しながら、

ちんぽをセクサロイド様が、

レイプしまくってるぞ？

ほーらほら、

ほーらほらー。

(怒りで責める感じで)

ちんぽイキたかったんだろう？

僕に嘘ついて、

誤魔化して…

それでオスマゾになるって

嘘ついて、

ちんぽ射精したんだったら、

それなりに責任取れよ。

ほらまたイク、

またイク、またイク、

ちんぽザーメンなんて

全然残ってないのに、

金玉ピクピクして、

それでマスクメキメて、  
ちんぽイキする。

ほら、イケ！  
つけええええ

ん？  
なに？

なんなのさ？  
いったから何？  
射精したから何？  
ちんぽ竿とれちゃうからなに？

何でちんぽ  
離さなきゃいけないの？

(中・近)  
嘘つきには、  
もつとちんぽ追い込んで、  
脳みそバカにして、  
廃人になるまでお仕置きしないと、  
僕のメンツが、  
立たないじゃないか。

ほらほら、  
ほらほら、ほらほらー。

(左・密着)  
(*ぎゅぎゅぎゅ*の音で)  
おおー、  
ピクピクーって  
体中痙攣して、  
じゅーじゅー、  
じゅーじゅーじゅーじゅーじゅー。

情けない、

ちんぽからお漏らしして、

それで、

許してもらえるとと思ったの？

僕がお漏らしでジジって

ちんぽゴキやめて、

ちんぽレイプするの

許してもらえるとと思ったの？

(右・密着)

ダメ、ダメ、ダメ。

ほら壊れろ、ほら壊れろ、ほら壊れろ。

お前はもう

廃人確定なんだから、

いくらちんぽから漏らしたって、

絶対許さなくて、

頭の中バカにしてやるから。

それで壊れろ。

ほらほら、

ほらほら、ほらほら。

僕の右手で

ちんぽせませま穴にしてシコって、

レイプしながら

ケツ穴の前立腺で、

お前のご串刺しにしながら、

ちんぽ壊してやるから。

ほら、脳みその中も壊れて、  
さっさと廃人になれ。

このバーバーカ。

(やや右・近)

おおぐ、

びゅっびゅ、

びゅっびゅ、びゅっびゅ。

男のくせにこらいつ、

潮吹きして、

どこからこんななに

水分出てくるんですかね？

マゾマスター。

(やや右・中)

ふふっ、

今日はまあまあ

頑張れたほうじゃないですか。

嘘をつくのは

感心しませんでしたけど、

失禁と潮吹きまで出来たのは、

しっかりとした成果として

認めていいと思います。

(左・密着)

いいですか？

マスター。

今度僕に嘘を言ったら、

脳みその中まで、全部破壊しますからね。

誰に嘘を言ってもいいですよけい、

僕だけには嘘をつかないでくださいいなね。

マスター。

(トラック④…秘密のガーデンでマゾオス披露)

(中・中)

ほーら、マスター。

妹マスター様がお待ちです。

しっかり身支度をして、

会いに行きましょうね、

ふふっ。

全裸にひん剥かれて、

ペニスリングを付けられ、

リードで、

引っ張られて…

情けない姿をさらされて…

ああ…

誰が見ても、

すぐわかるマゾな体。

オスのくせに

乳首は伸ばしつくされ、

肥大化させられて、

感度がよきそうなエロ乳首。

ケツ穴を見てあげれば、

ふふっ、

どんなおつきな

ちんぽでも飲み込む

エロビッチな

広がりケツ穴まんこになってー、

ふふっ、

さらにおちんぽはー、

大人の証である毛を

永久脱毛させられて、

ちんぼの皮は六センチ以上の  
だらだらのマゾちんぼにさせられて、

誰が見ても情けなくて最低な  
マゾオスの体です。

ほーら、

妹マスター様は、

お庭のガーデンでお待ちですから。

今から

お散歩しながら行きますよ？

ほーら、

おちんぼ金玉についたリードを

紐で引つ張りながらー

ふふっ、

まいりましょう？

(やや左・中)

ほーら。ほーら。

ガーデンまではしつかり

お屋敷の中を通って

いかなければなりませんから、

いろんな人に

見られてしまいますねー。

マスターが幼少期から

お世話になってきた、

お掃除係の雇われ家政婦やー、

ふふっ、

給仕の者たちや、

シエフにまで、

情けない姿をすべて

晒してしまっていますね。

マスターのご趣味で、  
雇われている従業員は  
すべて女性ですから、  
うれしいでしょう？

マスターが  
ちんぽに紐をつけられ  
引っ張られている姿、  
ぜーんぜーん  
見られてしまっていますよ？

ほら、ほら、ほらー。

(中・近)

言っておきますけど、  
いま引っ張られた快樂で  
射精をしてしまったら、  
両方にぶら下がっている  
金玉潰しますからね。

妹マスター様に、  
マスターの仕上がり具合を  
報告しに行くんですから、

しつけがなっていない  
姿をさらしたら、  
僕としても  
立場がないですから。  
そのぶら下がっている金玉、  
どちらか片方は、  
確実に潰します。

なに、二つあるんですから、  
片方くらいなくなっても  
構わないでしょう？  
マスター。

ふう

潰されるとわかったら、

何ちんぼ上向きにして、

包茎のまま

勃起しているんですか？

情けないですよ、それ。

ほら、ほら、ほらー。

ふふっ、

人に見られて、辱められて、

それで興奮しているんですか？

この前までふんぞり返って、

用意された椅子に

座っていたくせに、

今は情けなく恥ずかしい姿を

さらして、

それで快感に、

酔っている変態のクソマゾ。

やはりマスターは、

希少なマゾオスなのですね。

(中・中)

ほーら、

おちんぼを引っ張る力、

強くしてあげますから、

絶対に射精はしないでください。

もし、妹マスターに会う前に

射精をしてしまったら、

そのときはわかりますね？

(やや左・中)

お屋敷を出て、ガーデンまで行きますよ

しっかりとちんぼ保ってくださいませよ。

妹マスターの許可があれば、  
そのまま射精させてあげますから、  
頑張るんですよ、  
ほれ、ほれ、ほれー。

(やや左・中)

さあ、

到着しましたよ。

久しぶりの再会ですね。

マスターは、

マゾ姿をさらして

興奮している、

くそちんぼ野郎になったというのに…

妹マスター様は今も可愛く  
神々しいままで、

その妹マスター様に、

汚らしい自分を

見てもらっている

気持ちはどうですか？

ほーら、マスター。

教えたとおり、

芸を披露してください？

御前に控えているのは、  
マスターのような偽りの  
党首様ではなく、  
今後この家を

引っ張っていただける、

由緒正しい

ご党首様の目の前ですよ。

しっかりマゾオスとして  
芸を披露して、

媚びてくださいい？

(右・密着)

(キキキヤキ声で)

あーあ、腰を落として、

ちんぽを振りつけながら、

フリフリ、

フリフリ、フリフリしながら、

ふふっ、

情けないちんぽ晒し

運動していますね。

腰を突き出して、

小さいちんぽ、

少しでも、大きく見えるように頑張って…

元々妹として

慕ってくれていた女性の前で、

ちんぽを振りつけてー

ふふっ、

情けなく興奮して

勃起しているの、

丸わかりではないですか。

(中・中)

ふふっ、

良かったですね、マスター。

しっかり笑い、

取れますよ。

妹マスター様の天使の笑顔  
素晴らしいです

それではほら、少しはちんぼシコって、  
射精でもしてみたらどうですか？

妹マスターの前で、

しっかり射精ができる

マゾオスだというところ、

アピールしてあげてください。

(右・密着)

(馬鹿にする感じで)

あーあ、

こいつシコってる、

シコってる、シコってるー。

元、妹の前で、

ちんぼの皮せーんぶ向いて、

自分が一番気持ちいい

オナニーの仕方して、

本気でこいつ、

射精するつもりだよ。

この前までお兄様って

慕ってくれた女の子の前で、

興奮しまくって、

自分でちんぼシコりまくって、

早漏射精する気満々じゃん。

(やや左・近)

ほーら、ほら、ほらー。

マスター、マスター、マスター。

射精するときには、

それなりの作法があるって、

この前教えてあげましたよね。

マゾオスは自分が気持ちよくなっても、  
射精はしてはいけないのですから、  
しっかりお願いをしてください？

ふふっ、

そうです。

(復唱する感じで)

妹ご党首様、

情けない射精のご許可ください。

必死にちんぽごしつけて、

射精寸前まで

おちんぽ育てましたから、

ご主人様のおちんぽ蹴りで、

マゾオスの汚い

ザーメンをひねり出して、

気持ちよくなりたいですーって、

ほら、

妹マスターにお願いして、

ちんぽを蹴り上げてもらって、

射精をおねだりしてください？

(馬鹿にする感じで)

ふふっ、

あーあ、

笑われてる、笑われてる。

情けないマゾオスで、

変態の動物を

見るような目で笑われて。

ほーら、とてもきれいな御御足様が、  
マスターのおちんぽを

蹴り上げてくれるようですよ。

ほら、

しっかり妹マスター様の御御足が

膝にぶつからないように、

股を開いて、

蹴り上げやすいポーズにしてください。

両手を頭の上で組んで、

ちんぽを突き出して、

蹴り上げられたら

しっかり射精するんですよ。

射精しないのは、

失礼に当たりますからね。

(左・密着)

ほーら、3、2、1。

ほらっ、元妹に蹴られて果てろ！

このドMマージン、

このバーカ。

(やや左・近)

ああ、

出てる、出てる、出てる。

妹マスターに両金玉を

下から蹴り上げられて、

体ビクビクってなって、

マゾ顔晒しながら、

ちんぽザーメンびゅーびゅー飛ばして、

なっさけなーいっつ。

ふっつ。

(やや左・中)

はい。妹マスター様、

ありがとうございます。

このようにマゾオスの  
仕上げは順調に進んでいますので、  
次の試飲会にも出品できる準備、  
整っています。

はい。

僕も楽しみです。

僕の育てたマゾオスが、  
どのような評価を受けるか、  
とてもとても楽しみです。

(トラック⑤夜のワインセラー(耳舐めマゾオスザーメン試飲会)

(中・中)

ほーらマスター、

三ヶ月オナ禁

させてあげたんですから、

今日はお粗相のないように、

マダムたちにザーメンを提供してください。

まったく、

何度説明したらわかるのでしょうか。

いいですか？

もう一度説明して差し上げます。

今日は、

当屋敷で開かれる収穫祭。

さまざま催しと料理、

そして、

その家のマゾオスたちがふるまわれます。

まあ、当屋敷には、  
マスターしかマゾオスは、  
おりませんので、  
各マダムに貸し出すことは、  
難しいのですが…

本日は、  
マスターのマゾザーメンを、  
マダムたちに試飲していただきます。

仕上がった一流の  
ドムマゾオスの戦士は、  
とても上品で、芳醇な味がして、  
マダムたちの美容と健康にも  
とても良いのです。

ですから、  
グラスをちんぽに差し出されたら、  
その場でシコって、  
急いで射精をしてください。

気の短いマダムたちが多いので、  
できるだけ手早く、  
そして芳醇な、  
マゾザーメンを提供する、  
おちんぽサーバーになるのです。

言っておきますが、  
粗相などがあれば、  
ご党首様である妹マスター様の顔に  
泥を塗ることになりますから、  
くれぐれも、粗相がないように。

全裸にひん剥かれて、  
その溜まりまくった金玉を  
さらさら下びて、

食卓に並べられるのですから、  
それなりの覚悟をなさってください。

それでは、  
収穫祭がスタートしましたので、  
当家のマゾオスを、  
存分にご堪能ください。  
成人になるまで甘やかし続け、

当家の当主になれると  
脳みそにすり込ませた後に、  
自分が情けないドMマゾの  
家畜であることを存分にわからせた、

豊潤で、それでいて  
少々の酸味があるように  
仕上がっているかと思われます。

(右・近)  
ほーらマスター？

マダムがグラスをおちんぼの下に  
滑り込ませたのですから、  
今からやることわかりますよね。

(左・密着)  
(おちんぼをきき声で)  
ほーらシコれ、  
ほーらシコれ、  
ほーらシコれ。

マダムのおちんぼサーバーになれるおちんぼ、  
おちんぼシコって、  
その金玉に溜まった精子、提供しろ。  
ほら出せ、  
ほら出せ、  
ほら出せ、ほら出せ。

ああー

ぴゅっぴゅ、ぴゅっぴゅ、ぴゅっぴゅ。

早漏雑魚ザーメンですけど、

なかなかいい量のザーメンですね。

ああ、

飲まれてる、

飲まれてる、飲まれてる。

いろんなマゾたちを

味わってきたマダムに、

マスターのザーメン、すべて

飲み干されてしまいましたよっ……っ。

(中・中)

おやおや、

なかなかご好評だったようで、

他のマダムたちもあれよあれよと、

マスターのちんぽの下に、

グラスを滑り込ませていますね。

ほーら出せ、ほーら出せ。

マダムたちを待たせないように、

いくらでもザーメンを提供しろ。

いくらザーメンシコって

射精しても、

マダムたちが望む限り、

ちんぽシコって

(左・密着)

出せ出せ、出せ出せ、出せ出せ。

ほーら、

二発目、三発目、四発目、

(中・中)

ふふっ、

射精しても一切手を止めないで、  
ちんぼシコリまくって  
連続で射精するなど、  
なかなか良く仕上がった  
マゾ加減ではないですか、マスター。

(やや左・中)

それで、

先ほどから打ち止めになって、

何ちんぼシコって、

マダムを待たせているのですか？

いくら九発目の射精だからと言って、  
求められたら出す、  
それがマゾの生きる道なのですよ。

ほーら、マスター、

マダムを待たせてはなりません。

妹マスター様の顔に  
泥を塗ることになりますよ。

私がほら、

執事として

手伝ってあげますから、

ザーメンをさっさと提供しなさい。

(右・密着)

ほら、

耳を舐めながら、

命令して差し上げます

(耳フェラ 10秒)

お前はザーメンひねり出すしか  
使い道のないマゾ家畜なんだから、  
さっさと出せよ。

お前のザーメン、

もし出なかったら、

ちんぼ潰して、

破壊した金玉の奥にある

ザーメンひねり出させるぞ。

ほら、さっさと出せよ。

オスとして、

求められるんだったら、

ザーメンくらいご馳走しろよ。

(耳フェラ 10秒)

このクソマゾ、

クソマゾ、クソマゾ。

ほら、出せ、出せ、出せ。

(耳フェラ 10秒)

ああ、

出てる、出てる、出てる、

ふふっ、

まーだこんなに

金玉ザーメン隠し持っていて、  
いけないですね、

クソマゾマスター。

(やや右・近)

ふふっ、おやおや、妹マスター。

グラスを滑り込ませて、

元お兄様のおザーメン、

堪能したいのですね。

ほーら、マスター？

さっきので打ち止めなんて

言わないですよね。

せっかく元妹の妹マスター様が、

ご堪能いただけるのですから。

自家製の雑魚ラーメン、

しっかり絞り出して、

妹マスター様に献上してください。

(右・密着)

ほら、ほら、ほら。

先ほどから金玉空になっているのは  
わかっていますから、

ケツ穴に三本指を突っ込んで、

ごしつけながら、

金玉をゴリゴリ、

ゴリゴリ、ゴリゴリ。

もう片手でこりつけて、

ほら、今からラーメン作れ。

妹マスター様に献上できるように、

ラーメン作って、

人生ペしゃんこにされちゃった

マスターの味を、

しっかり飲み押しして頂いて、

わかっていただきましょう。

ほら、ほら、ほら。

(耳フェラ 10秒)

作りたてラーメン。

元妹に飲まれるために出して、

ほら果てろ、果てろ、果てろ。

ほら、だ、せっ！

(やや右・近)

ああー、

出てる、出てる、出てる。

決して量は多くないですが、

トロトローっと

マッザーメンひねり出して。

(中・密着)

ふふっ、ああ、

飲まれてる、

飲まれてる、飲まれてる。

でも、

ふふっ。

吐き捨てられて、

汚物扱いされてしまいましたね、

マスター？ ふふっ。

まだ少々、

妹マスター様には

わからない味だったようです。

ほーら、

お仕置きですね！

マスターっ！

ふふっ、あーあ、

妹マスター様に

金玉蹴りを頂いて、

ありがとうございますなぞと、

なかなか仕上がっておりますね。

まあ、

党首様は…

満足させることが  
できませんでしたが、  
諸々のお家柄のマダムたちには  
好評だったようですので、ふふっ。

まあた、

明日も別のマダムたちの

試飲会があるので、

頼みますよ？

マスター。

(トラック⑥：誕生日ペニバン SEX)

(中・近)

ほーらマスター。

本日は楽しい楽しい

マスターの誕生日ですね。

毎年ケーキを作って、

祝わせていただいていたんですけど、

本日は、

少々趣向を変えております。

ふふっ、

女性者の下着を履かされて、

マスターは今から女の子として、

僕に抱かれるんです。

男装執事の格好をした

セクサロイドに

偽物ペニバンをつけてもらって、

女の子の格好したマスターは、

犯されてしまうのです

ねえ、マスター。  
好きですよね？  
こういうの。

昔から、僕のことを  
オナホ代わりに行っているときも  
少々物足りなさを  
感じていたのではありませんか？

ふふっ、

それはマスターが、  
生粋のマゾのドMだからです。

当は僕に  
抱かれなくて抱かれなくて  
しょうがなかったのに、

自分の立場があるから、  
僕に抱いてもらうなんて  
できなかつたんですよ。

でもいいんです。

マスターは、  
マゾオスに  
しっかり作り替えられ、  
もう社会的な、

立場も地位もありませんから、  
僕に甘えてきていいんですよ。

今日だけはしっかり  
甘えさせてあげますから、  
しっかり僕に  
抱かれてください。

(中・中)

ほらっ、ふっ、ふっ。

あーあ、

命令もしていないのに、

偽物ちゃんぽにしやぶりついてきて、

上目遣いで僕のちゃんぽのこと、

ズボズボ、ズボズボ、ズボズボして、

このちゃんぽで犯して、

犯して、犯してーって、

おねだりしてきちやダメじゃないですか。

ドムマムンに

仕上げたつもりだったんですけど、

本当はこんな変態ビッチに

仕上がってしまったんですか？

(中・密着)

ほーら、

頭を掴みながら、

もっと喉の奥まで

偽物ちゃんぽ出し入れして、

犯して差しあげますから、

ほれ、ほれ、ほれ。

本当はこういう、

苦しくて、

物みたいに扱われるのがいいんですよね。

喉の奥まで、

自分よりもデカイ

偽物ちゃんぽ出し入れされて、

喉ちゃんぽを犯されながら…

空気をもらえず

窒息死寸前まで追い込まれて、

(左・近)

(復唱する感じで)

ああ、

このちんぽには絶対敵わない。

僕のちんぽなんかじゃ

絶対勝てないーって屈辱感で、

勃起しながら、

犯される想像をして、

ふふっ、

とっても恥ずかしいですね、マスター。

(中・近)

ほーら、僕のちんぽ、

もうマスターの唾液で

ヌレヌレビチョビチョに

なりましたから、

今から犯してあげますよ。

前と後ろ、

どちらからがよいか、

マスターに選ばせてあげます。

ふふっ、

そうですね、

正面からがいいんですか。

とってもかわいいですよ、

マスター。

ほーら、

女性もの下着を脱がせて

今からマスターのケツ穴に、

偽物ちんぽ、

セットしてあげますからね。

(中・近)

ふふっ、ほーら正面から  
見つめながら抱いてあげますから、  
しっかりケツ穴振って、  
おねだりしてください？

セクサロイドの執事の僕に  
偽物ちんぼ使ってもらって  
抱かれましたーって、  
ほーらしっかり股を広げて、  
ケツ穴をひくひくしながら  
おねだりしてください？

ふふっ、そうですか。  
とってもいい子です。  
ほれ、ほれ、ほれー。

(中・密着)

こうやって女の子みたいにな  
正面から目を見つめられて、  
キスをされながら、  
ケツ穴に

偽物ちんぼ(しつけられながら、  
抱いてほしかったんでしょ？)

(キスフェラ 10秒)

言っておきますけど、  
僕のちんぼはいくら貫いても、  
絶対に許してあげませんからね。

マスターのちんぼから  
いくら女の子イキして  
メスアクメ射精しても、  
ぜーったいに許さない犯しちんぼで  
レイプしまくってあげますよ。

マスターのケツ穴の奥が  
グシヨグシヨになって、

ゆるゆるになって溶けても…

それでもまだ

この偽物ちんぽで

犯し尽くしてあげますからね。

(左・密着)

ほら、

ほら、ほらー。

ほーら、じゃあほら、

ドスケベなキス。

自分からおねだりしてください。

入れてくださいっておねだりしながら

ベロチューキスして、

今からお尻まんこしますよ。

ほーら、

ドスケベキスして、

ふふ、

おねだり頑張れましたね。

(キスフェラ 10秒)

(中・近)

じゃーあ、

行きますよ。

ほら入る、ほら入る、ほら入る。

あーあ、い

つも広げられているケツ穴に、

ぶっといの入れられて、

オス穴の奥まで犯されちゃいましたね。

ほらほらほら、

ここがいらんでしょう。

僕の腰使い、

腰を、

へこへこ、へこへこ、へこへこ、

されながら、

オスの一番弱いところを

ゴシ付けられて、

ちんぼ勃起も

許されないのに、

後ろから貫かれて、

トロトロザーメンメス射精させられて、

それでイキたいんでしょう？

(やや左・中)

ほら、ほら、ほらー。

まずはちんぼから、

全然触ってないザコちんぼから、

女の子イキ射精してみろ。

男の子みたいになかったかい

びゅーびゅー射精じゃなくて、

女の子みたいな

トロトロザーメン射精して、

それでちんぼに負けてイっちゃえ。

(左・近)

ほらいけ、

ほらいけ、ほらいけ~~~~

(中・近)

ああー、

トロトロ、トロトロ、トロトローって、

おちんぼの先っぽから情けない

メスザーメン発射しちゃってますね。

でもほら、

でもほら、でもほらー！

違いますよね。

本当はイキたいのは、

こっちでイキたいんですよね。

オスのくせに子宮に見立てた、

ケツ穴の一番奥で、

セクサロイドにちんぼで貫かれて、

それでほら、

メスアクメ決めたんですよね。

(やや左・近)

ほーら、

お耳も犯してあげますから、

(左・密着)

イキたい、イキたい、

イキたいって言葉。

(耳フェラ 5秒)

マゾマスターだから、

女の子イキして、

僕のちんぼで貫かれながら、

女の子イキして

、メスアクメしたいって

言いながらイっちゃえ。

ほーらいけ、

ほーらいけ、ほーらいけ。

僕がイかせてやる。

昔からマスターのことを  
大事に大事に育ててきた僕のちんぽで  
イかせてあげるから、  
ほーら、  
おねだりしながらいっっちゃえ。

(右・密着)

さーん。

ほーら、

へこへこ、へこへこ、へこへこ。

人間のオスじゃ絶対できない  
腰へこ速度まで上げて、  
マスターのゆるーいケツ穴を  
いじめ上げてあげますよ。

(中・密着)

にーい。

おおー、

出る出る、出る出る、出る出る。

偽物ちんぽから、  
マスターのザコまんこ犯すために、  
僕のオイルを  
ろ過した人口ザーメン、  
マスターの中に注ぎ込んで、  
中出し決めますよ。

(左・密着)

いち。

ほらイク、

ほらイク、ほらイク。

ほーら、僕もケツ穴振って、  
一緒にいってあげます。

セクサロイドなのに、  
絶頂アクメキメて、

マスターと一緒にイッてあげますから。

ほらイっちゃえ、

ほらイっちゃえ、ほらイっちゃえ。

ほら、ちんぽからイけ、

このマゾマスター、イっけ！

(左・密着)

おお〜で、るっ！

おお〜、

出てる、出てる、出てる。

脳みその回路、

抵抗なくしてスパークさせて、

マスターのマゾイキ一緒に、

僕もイッてあげてますよ、らっ。

(中・近)

立派なマゾになれましたね、

マスター。

僕が犯してあげても、

気持ちよくなり続けて…

男の子のプライドなんて

一切持っていないくて、

とても上質なマゾに

仕上がりましたね、

マスター。

(中・中)

それでは…

もういいですしょう。

明日、

ここのお屋敷から一緒に出ますよ。

マスターは十分お屋敷マゾとしての  
役割を果たしましたから。

僕と一緒に、

マスターが、一人の人間として  
生きていけるところを探しましょう。

僕はマスターの

セクサロイドですから。

死ぬまでマスターと一緒にですよ。

ねえ、

そうでしょう？

マスター。